

万事塞翁が馬

コロナに振り回されている近頃。学生のみなさんはどんな風に毎日を過ごしていますか？

こんな時にぼくがいつも思いだすのが、「人間万事塞翁が馬」の故事です。みなさんも聞いたこと、ありますよね。かなり簡単に言えば、馬から落ちて骨折した息子が、偶然同じ時に起きた戦争に行かなくてもすんだ話。

ホントに幸不幸というのはわからないもので、短期的には不幸な要素が、実は長い目で見ると意外と幸福をもたらしてくれたりもするものです。コロナについても、ぼくはそのくらいの気持ちで傍観しながら日常を過ごしています。

ポジティブ過ぎるって？

でも、ぼくの周りにはそんな話がゴロゴロしてますよ。最近で言えば、盲腸で病院に運び込まれた友人は、その検査で偶然ガンを早期発見したおかげで一命を取り留めました（実話です）。そもそも、ぼくが学習院女子大学の恵まれた環境で研究教育を行えているのは、ある地方の採用試験で不採用となったおかげ。不採用通知を受け取った時は最悪な気分でしたが、その時に採用されていたら、今頃ぼくはこの文章を書いていることもなかったでしょう。これぞ塞翁が馬！

だから、ぼくは人生の幸不幸を短いスパンで判断しないようにしています。コロナについても同じ。いま生まれている政治社会的変化が、今後の私たちの人生にとって貴重な何かを生み出していく可能性だってあるし、コロナで自宅で過ごす時間が増えて、日常の楽しみ方もこれまでより上手くなってきたように思います。ちなみにぼくは、関心のある国の料理を作って「擬似旅行」するのが好きです（それで最近、庭でバクチーを育てています！）。メディアでは「本日、～人の感染が判明」みたいな超短期的なニュースばかりで、日本全体が近視眼的になっているように感じます。ネガティブな事実ばかりをクローズアップして、そこにのめり込んでいくような姿勢は自分や周りを疲れさせるだけで、結局、何も生み出さないのではないのでしょうか。

少しゆったりとした長期的視野を意識すること、ある種の傍観者的視点も重要じゃないかなと感じる今日この頃です。みなさんも、今まで気づかなかった、身の回りに転がっている「楽しみ」、探してみませんか？

5月18日 教員 J.K.